



1月11日、恵那文化センターで「二十歳を祝う会 恵成式」が行われ、368人の新二十歳が出席。旧友や家族と新たな門出を祝いました。

問 社会教育課 26-6853

令和8年恵成式出席者が生まれた
平成17(2005)年の話題

- 大きなニュース：愛・地球博（愛知万博）開催、セントレア開港、野口聰一氏スペースシャトルで宇宙へ
- 流行語年間大賞：小泉劇場、想定内（外）
- 今年の漢字：愛
- ベスト映画（邦画）：ハウルの動く城
- ベストセラー本：樋口裕一氏『頭がいい人、悪い人の話し方』
- レコード大賞：倅田來未『Butterfly』



実行委員による二十歳の決意



実行委員による二十歳の抱負

(一部抜粋)

私が今日この場に立てるのは、家族の深い愛情と献身があったからに他なりません。この感謝は決して忘れません。

二十歳の節目を迎えて「責任の重さ」と「人とのつながりの大切さ」を日々実感しています。思い通りにいかないこともあります。しかし、私はこれから20代、さらに多くのことに挑戦していきたいと思っています。私たちが挑戦する姿を示すことだと信じ、自分の手で未来を切り開いていきます。



佐々木 大介さん
(山岡中卒)

現在、私は大学で国際教養を学び、教職課程を履修しています。将来、人と人との関わりを大切にする職業に就きたいと考え、人種や宗教、国籍など、真の多様性とは何かについて考えています。私たち、「Z世代」と呼ばれ、「自分の生き方」を重視する世代だと位置づけられており、特徴の一つとして「人それぞれ」という意識の強さがあります。しかし、その切り分けは時に思いやりのない社会を生み出してしまうでしょう。多様性の時代だからこそ、違いを避けるのではなく、対話を重ねながら理解を深め、眞の「尊重」を実践できる大人へ成長していきました。



牧野 莉生さん
(恵那西中卒)



思い出に残る 実行委員による初企画

本年度から恵成式の運営費に「ふるさとえな応援寄付金」を活用。本寄付金により、実行委員がこれまで以上に主体的に企画や運営に取り組めるようになりました。

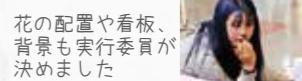
「一生に一度の晴れ舞台、恵成式を楽しんでもらいたい」。そんな思いで、実行委員は昨年5月から式典の企画を進めてきました。その中でも、今回初の取り組みを紹介します。

◀当日の様子を
YouTubeで見る
ことができます

農高生が花を置く



テーマは「和」



豪華なフォトスポットが完成!

華やかなフォトスポットを制作

恵成式会場の「フォトスポットが少ない」という課題を解決しようと、実行委員がフォトスポット制作に挑戦。恵那農業高等学校の生徒が育てた紅白のシクラメンやシンビジウムをあしらった華やかなフォトスポットを、同校の生徒と共に制作しました。

「晴れの日の思い出を写真で残したい」という思いを実現し、出席者らは久しぶりに会えた仲間とたくさんの写真を撮影していました。



ドローンショーを実施

小中学生のときからドローンの授業を受けてきた実行委員の発案で、株式会社ROBOZに依頼しドローンショーを実施しました。

二十歳の門出に合わせ、20機のドローンがステージ上できらきらと輝く星の形や「20」の文字を描きました。ドローンが作り出す光と音のエンターテインメントに会場全体が見入っていました。



全員参加システムを使ったクイズ大会を開催

自分のスマートフォンでクイズやアンケートに答える全員参加クイズ大会を実施。好きな給食や思い出に残る体育大会の種目など、学校生活を懐かしく振り返るお題や、恵那をさらに深く知れるお題を実行委員が考えました。

市公式キャラクター「エーナ」や恩師が登場すると、会場は大盛り上がり。出席者らはクイズを楽しみ、懐かしさを共有しました。

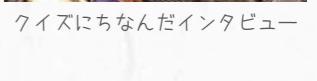
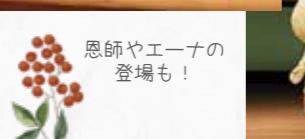


参加者全員が
スマートフォンで
クイズに参加



クイズにちなんだインタビュー

気になる結果は!?



広報えな 2026年2月 4